

# 日本福祉介護情報学会ニュース

2006年度第2・3合併号

2007年3月14日

発行：日本福祉介護情報学会（<http://jissi.jp>）

埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学コミュニティ福祉学部 森本研究室内 [jissi-mail@e-wel.ne.jp](mailto:jissi-mail@e-wel.ne.jp)

【目次】	1. 第7回研究大会を終えて……………	1
	2. 学習会報告……………	3
	3. 事務局から……………	4
	(編集後記)……………	4

## 1. 第7回研究大会を終えて

日本福祉介護情報学会 第7回研究大会 事務局  
(立命館大学) 生田正幸

まずは、第7回研究大会を無事開催できましたことにつき、会員及び参加者各位、協賛いただいたJAHIS（保健医療福祉情報システム工業会）、学会事務局、さらには支援をいただいた関係者各位に厚く御礼申し上げます。

第7回研究大会は、2006年11月26日（日）、JR京都駅前にありますキャンパスプラザ京都5Fの第一講義室において開催されました。折しも紅葉シーズンのピークにあたり、観光客でごった返す中、宿舎や列車・航空便の確保にご苦労された遠来の参加者の方も少なくなかったようです。数ヶ月前から予約された方や滋賀・大阪でようやく宿舎を確保された方など、「京都、恐るべし・・・」の声も聞かれるほどで、思いがけず観光都市としての一面に触れることとなりました。

さて、学会大会は、ここ数年恒例となっているように、午前中に自由研究発表、午後にシンポジウムという構成で開催させていただきました。テーマとして「福祉・介護の実践としての情報の活用 ―記録をめぐる新たな取り組み―」を掲げたこともあり、「社会福祉実習記録の自由記述文分析による実習の効果と成果の客観的把握の試み」〔大原ゆい氏（立命館大学産業社会学部実習指導室）・稲村玲子氏（立命館大学産業社会学部人間福祉学科）〕や「福祉サービスの選択に必要な利用者支援に関する実践とその課題 ―ケース経過記録分析の試み―」〔立命館大学大学院社会学研究科 関口洋明氏〕、「介護情報を包括的・継続的に記録し評価できる新しい概念のケアマネジメントシステム ～情報システムを利用したケアの質の向上に向けた誘導～」〔吉仲 克己氏（株式会社ファーストプレス）〕といった記録に関連する発表が多く、「社会福祉学部生の情報活用の実践力」〔小川晃子氏（岩手県立大学）、野村豊子氏（岩手県立大学）、米本清氏（岩手県立大学）、櫻幸恵氏（岩手県立大学）〕、「介護認定審査のIT化」〔藤井 慶氏（滋賀県湖南市認定審査会・藤井歯科）〕とともに、福祉・介護分野における情報活用の先端的な研究動向や実態について議論することができたのは非常に有意義であったと思います。会場の関係で、自由研究発表枠が最大5枠しか確保できず、先着順でお断りせざるを

得なかった方々には、改めて深くお詫び申し上げます。

お昼の休憩、学会総会をはさみ、午後は、大会テーマをめぐるシンポジウムを開催しました。まず冒頭で、高橋紘士氏（本学会代表理事・立教大学）から、「福祉・介護改革と情報化の行方 ― 地域介護を支える記録 ―」と題して、激動する福祉・介護の制度改革の現状と情報化の行方について問題提起をいただき、その後、状況報告として、「高齢者介護を支える情報システムの自主開発と記録の活用をめぐる ― テンダーヒル御所における取り組み ―」（社会福祉法人 明徳会 地域支援センターテンダーヒル御所わかば館 館長 鶴田浩史氏）、「高齢者介護における情報化の実践と記録の活用 ― 寿楽園における取り組み ―」（社会福祉法人 寿楽園 第一施設サービス部長 山内均氏）、「在宅生活療養ノートネットワークシステムについて ― 地域ケアのための記録共有システムの開発と実践 ―」（株式会社 アトル 介護システム推進部 小河信生氏）をレポートしていただきました。施設と地域における記録のシステム化の取り組みについて忌憚なくご報告いただき、福祉・介護の実践にともなう記録に対する取り組みについて認識を新たにするとともに、情報活用の重要性和問題点や課題について認識を深めることができたと考えています。そして、最後に、「記録活用の新しい途 ― 福祉・介護の資源としての記録の再発見 ―」（立命館大学 生田正幸）により、形態素解析技術を活用したサービス提供記録の解析と定量化の取り組みによる記録活用の新たな可能性について報告と課題提起をさせていただきシンポジウムを閉じました。進行不手際により、質疑応答や意見交換の時間を十分にとることができなかった点、盛りだくさんの報告内容にもかかわらず十分なレポート時間を確保できなかったことなど、反省すべき点は多々ありますが、実り多いシンポジウムであったことに免じてご容赦いただきたいと思います。また、遠路お運びいただいたシンポジストの方々に厚く御礼申し上げます。

大会終了後は、雨の中、会場近辺の居酒屋に場所を代えて懇親会を開催しました。冒頭にも申し上げたように観光シーズン真っ盛りとあって会場の確保が容易ではなく参加枠に限られていたことに加え、大会参加者の多くが参加を希望されるといううれしい誤算もあって、多少オーバーに言うなら懇親会の参加チケットが「プラチナチケット」化してしまいましたが、参加者各位のご理解と大会運営スタッフの協力により、なんとか対応させていただくことができ胸をなで下ろしたような次第です。ご迷惑をおかけした方々には、改めてお詫びいたします。

懇親会では、福祉情報化研究に関するパイオニアの一人であり、本学会監事である同志社大学の岡本民夫先生より乾杯のご挨拶を賜り、参加者一同、大いに懇親を深め議論を交わすことができました。

以上、第7回研究大会について報告させていただくとともに、この場をお借りして御礼やお詫びなど申し上げます。

小規模な学会ですので、研究大会もコンパクトに開催することができ、研究発表やシンポジウム、さらには懇親会において、文字通り Face to Face の議論や交流をはかることができたという点で、大いに成果があったのではないかと思います。また、「記録」という資源を有効活用し福祉・介護サービスの質の向上などに活かそうという実践的な情報化の課題について集中的に学び議論し考えることができたという点においても、自画自賛ではありますが、実に有意義な一日であったと思います。

関係各位に、改めて御礼申し上げますととも、また、次回学会大会でお目にかかれまことを、楽しみにしております。



## 2. 学習会報告

日本福祉介護情報学会事務局  
(立教大学) 森本佳樹

今年度の学習会は、「『e-Japan戦略』から『IT新改革戦略』へ～福祉・介護・医療のIT化をめぐる国家戦略の行方～」をテーマに、JAHIS（保健医療福祉情報システム工業会）の協賛を得て、2006年9月9日（土）14:30～17:00に、立教大学池袋キャンパス8号館3階8303教室で、約60名の参加者を得て行われました。

これは、昨年1月に内閣府のIT戦略本部が策定した「IT新改革戦略～いつでも、どこでも、誰でもITの恩恵を実感できる社会の実現～」、また、その実施を図るために7月に公表した「重点計画2006」に、今後の医療・健康・介護・福祉・子育て・就労・生涯学習・人材育成・移動交通・バリアフリー等さまざまな分野におけるIT化・情報化に向けての基本的な考え方と具体的な取り組みが盛り込まれていることに鑑み、本学会の今後の活動や方向性について示唆を得るとともに、会員の皆さんに現状と動向を伝えるべく企画されたものです。

学習会は、高橋紘士学会代表理事の挨拶のあと、内閣官房IT担当室総括主幹・和久田肇氏が「IT新改革戦略の理念と展開」と題して、IT新改革戦略の理念・経緯・現状・今後の展開について分かりやすく解説され、続いて、内閣官房IT担当室担当官・永積慶之氏が「福祉・介護・医療をめぐるIT新改革戦略—その目標と課題—」と題して、本学会に関連の深い福祉・介護・医療をめぐる動向について詳しく解説されました。

その後、生田正幸学会副代表理事の司会によって質疑が行われ、今後注視すべき点などについてのコメントがなされ、閉会しました。

ところでIT戦略本部では、この戦略に基づいて昨年8月に「IT新改革戦略評価専門調査会」を設置しましたが、その分科会として「医療評価委員会」が設置されており、数度の検討を経て、今年度末には、「医療・健康・介護・福祉分野の情報化グランドデザイン」が示されることになっています。

学会では、こうした動向に敏感に対応し、必要に応じて学習会を積み重ねていく所存です。また、会員の皆さんのニーズに応じて学習会を企画していきたいと考えていますので、希望するテーマなどがありましたら、学会事務局までお知らせいただければ幸いです。

### 3. 事務局から

日本福祉介護情報学会事務局  
(東京都社会福祉協議会) 須永 誠

#### ■会員加入状況 (2006年12月末日現在)

個人会員 106名 / 学生会員 32名 / 法人会員 4法人 (登録 5名)

#### ■2006年度会費の請求

先日会員宛メールでお知らせいたしましたように、本年度にご納入いただく会費等の納入依頼をニューズレター本号に同封してお送りいたしました。年度末が迫り恐縮ですが、年度内の納入方をお願いいたします。法人会員あてには、請求書式による様式を同封しておりますので、ご確認ください。

なお、銀行送金にあたっては、「送金者名入力」の際、①本封筒の宛名シールや請求書式に記載の「番号」、②会員氏名、の順に入力されるようご協力ください。銀行のシステム統合により、送信者側で、「組織名+氏名」を入力されても、通帳の摘要には(記載文字数が「カナ10字」に制限されたため)組織名の一部しか記載されないため、確認に手間取ることが多くなっていますので、ご協力ください。

#### ■会員登録情報の確認

去る11月に京都で開催しました、本学会2006年度研究大会の折に学会総会でご報告したように、会員各位の連絡先データが古くなり、メールや郵便による連絡のとれない会員が増加しています。

そこで、今般の郵送に合わせ、各会員の「会員区分」と「連絡先データ」を確認させていただくことにしました。同封のデータを確認いただき、訂正がある場合、学会事務局までご連絡をください。

~~~~~      ~~~~~      ~~~~~      ~~~~~      ~~~~~

#### (編集後記)

今号は、研究大会と学習会の報告となりました。諸般の事情により、研究大会の開催案内をニューズレターに載せることができず、申し訳ございませんでした。昨年度同様に3号の発刊を目指していたにも関わらず、第2号と第3号が合併号となり、しかも年度末の発刊となってしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。

今年は暖冬でしたが、岩手では後期入学試験の時期になって久々の降雪となりました。花粉症の方には辛い時期ですが、皆様におかれましてはくれぐれもご自愛ください。

(岩手県立大学) 小川 晃子